



笹小だより

No. 1 1

令和2年2月28日
横浜市立笹野台小学校

「心の育ち」

校長 飯田 雅人

令和元年度も残り一カ月となりました。今年は暖冬だったこともあり、明るい日差しや風の匂いなど、ところどころで例年にも増して、より一層春の気配を感じることができません。

春は、別れと出会いの季節でもあります。6年生93名は、3月19日にこの笹野台小学校を巣立っていきます。卒業まで残りあと15日余り。この1年間、笹野台小学校のリーダーとして頑張ってきた6年生が卒業していくことに名残惜しさを感じます。

今年の6年生は、4月5日の入学式当日から式に参加しました。式に入場する前の1年生の教室の中では、1年生にやさしく話しかけ、新入生の緊張をほぐしてくれていました。かわいらしい1年生をリードして手をつなぎ入場してくる姿は、緊張の中にも学校のリーダーとして頑張ろうとしている姿勢がすでに感じられていました。最上級生として、1年生と同じぐらい初々しかった様子が思い出されます。この1年間、1年生との交流を通して、1年生も成長しましたが、6年生自身も多くのことを学び、一段と成長したように思います。

少し前のことになりますが、こんなこともありました。4年生が区の音楽会の当日の朝のことです。まだ、みんなが体育館に来る前に4年生がステージの上で練習をしていました。文化体育館での体育実技発表のための朝練習をしていて、たまたま体育館に残っていた6年生の何人かが、4年生の歌の練習が始まると、前の方に集まって静かに聴いてあげていました。4年生が歌い終わると、6年生は当たり前のように心の奥底からの拍手をしていました。それを見ていた4年生は、その拍手の気持ちが伝わったようで、にこにことてもうれしそうにしていました。求められて拍手をしたり、されたりするのではなく、ごく自然に出てくる笹小の子どもたちの応援する気持ちやそれに応える姿……。日頃の何気ない子どもたちの様子の中から、子どもの「心の育ち」を感じとることができ、私もとてもうれしくなった出来事でした。

また、6年生に限らず、日頃の朝の会での子どもたちの歌声や、音楽朝会での様子を見ていけば、すこやかな「心の育ち」が学校全体の子どもたちに感じられます。

保護者の皆様、地域の皆様には、この一年間、子どもたちを温かく見守り、支えていただきありがとうございました。

温かい気持ちで卒業生をおくる3月。自己の振り返りとこれからのさらなる飛躍のために必要なことを確認しながら、大切なまとめの月にしたいと考えております。今後とも変わらぬご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

笹野台小学校合い言葉 **元気いっぱい** **やさしさいっぱい** **笑顔いっぱい** **心かがやく笹小キッズ**